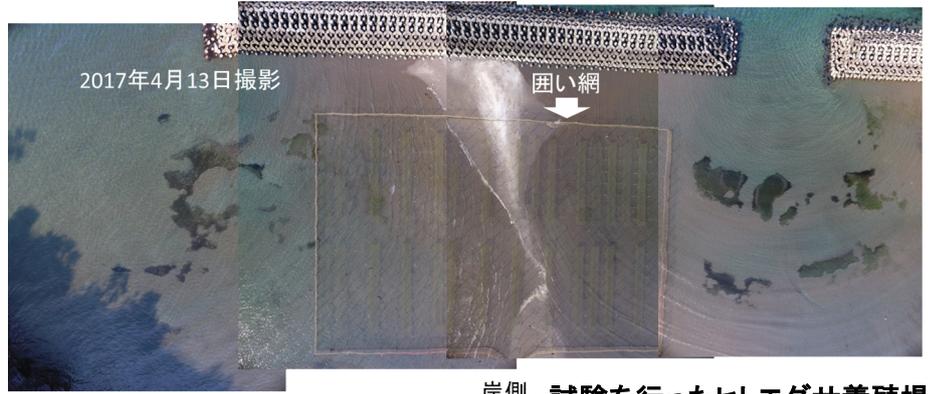


# ヒトエグサ養殖場で見られた食害事例

漁場環境部 研究専門員 猪狩 忠光

## 【背景】

鹿児島湾内のヒトエグサ養殖場では、近年藻体が伸びず採摘できない漁場が見られ、植食性魚類による食害が疑われてきた。そういった中、食害防除網を設置した養殖場で沖側・岸側2列に張ったものの沖側のみ藻体が短くなる現象が発生したことから、インターバルで動画を撮影できるカメラを用いて食害の有無を確認した。



岸側 試験を行ったヒトエグサ養殖場

## 【方法】

カメラの設定：1分間隔で10秒間動画撮影  
撮影時間：令和3年3月30日17:15~18:28, 31日6:30~14:30  
カメラを防水ケースに収容後、養殖網の高さに支柱に固定。  
撮影対象の養殖網は当日(3月30日)までしばらく養生され藻体が比較的長くなっていたものとした。なお、囲い網は潮位2m前後で設置されていたが、沖側の一部が1.7m程度に下がっていたところもあった。

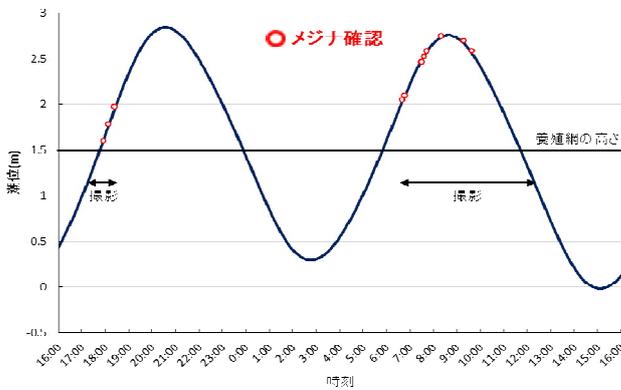


カメラの設置状況と対象の網

対象の網のトエグサの状況

## 【結果】

潮の干満により、網が水面下で撮影された時間は、30日17:40~18:28, 31日6:30~11:23で、撮影回数は157回であった。魚による食害は30日17:59, 18:13, 18:21, 31日6:43, 6:45, 7:36, 7:40, 7:45, 8:20, 9:15, 9:39の11回確認された。食害種はメジナと断定した。潮が囲い網を越えるとすぐに侵入したが、網内に取り残されることはなかった。



潮汐とメジナの食害が確認された時刻



最初の食害が確認された画像



食害種をメジナと断定した画像



食害後の養殖網

## 【まとめ】

囲い網を設置したヒトエグサ養殖漁場でメジナによる食害をインターバルカメラにより確認した。メジナは潮が囲い網を越えると同時に進入し、下回るまでに網外に出て、網内に取り残されることはなかった。沖・岸の養殖網間にさらに高めに防除網を張り以後の岸側の食害を防除し、採摘を行うことができた。